様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22 年　6 月　7 日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005 ～2009
課題番号：１７０８３００５
研究課題名（和文）　朝鮮思想と中国・ヨーロッパ――東アジア海域交流のなかで

研究課題名（英文）　Korean philosophy and China and Europe - in the maritime cross-cultural exchange in East Asia

研究代表者
川原　秀城　（KAWAHARA　Hideki）
東京大学大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：70135177

研究成果の概要（和文）：朝鮮王朝の知識人が行った学問の内容を分析して東アジア海域の文化交流におけるその位置を見定め、あわせて江戸文化との比較検討作業を行った。すなわち、主として朝鮮の朱子学・陽明学・実学・科学を具体的に取り上げ、それに認められる中国やヨーロッパ起源の知識や概念との影響関係を検証してその間の異同を明らかにした。そして、その特徴を日本の場合と対照させ、影響面を解明するとともに、質的な相違点についても考察を加えた。

研究成果の概要（英文）：We analyzed the contents of the studies pursued by the elites of Joseon dynasty to confirm its position in the cultural exchange in East Asia. At the same time, we compared them with the Japanese Edo culture. That is, we mainly discussed Korean Neo-Confucianism, practical science and science and examine the influence of knowledge and concept originating in China end Europe to elucidate their differences. We compared the characteristics of Korean Neo-Confucianism with the Confucian studies in Japan to demonstrate its influence and to discuss the qualitative differences.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
17 年度	4,800,000	0	4,800,000
18 年度	4,800,000	0	4,800,000
19 年度	4,800,000	0	4,800,000
20 年度	4,800,000	0	4,800,000
21 年度	4,800,000	0	4,800,000
総　計	24,000,000	0	24,000,000

研究分野：東アジア思想史・科学史
科研費の分科・細目：複合領域・科学技術史
キーワード：(1)朝鮮思想　(2)朝鮮性理学　(3)朝鮮実学　(4)西学　(5)朝鮮陽明学　(6)朝鮮風水　(7)朝鮮数学　(8)イエズス会

１．研究開始当初の背景

朝鮮王朝は建国の当初から、朱子学を中心とした中国文化の圧倒的影響下に発達してきた。当時、中国の学問文化の中心が江南にあったことは周知のとおりである。知的営為にあっては退渓に代表される朝鮮朱子学（江戸儒学への影響は大きい）や、日本の和算の源流をなす朝鮮算学（東算）などが、その中

国からの影響の産物である。
だが中国伝統文化の影響にくわえて、主に漢訳西学書を通して、間接的にではあるが、南海のルートをへたヨーロッパ文化の影響があったことも忘れてならない。その最もめざましい成果が朝鮮科学であり、朝鮮実学である。

２．研究の目的
16～18 世紀、朝鮮王朝期の知識人が行った種々の学問、すなわち朱子学・陽明学・実学・科学などの内容を分析し、そこに認められる中国やヨーロッパ起源の知識や概念との影響関係を検証し、その間の異同を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法
本研究では朝鮮思想における中国とヨーロッパ的なものを検討し、その世界的な拡がりを文献に即して考察する。
具体的には朝鮮知識人（星湖学派など）の朱子学・実学・科学に関する著述と、中国伝来の文献（性理学書やイエズス会系漢訳書）を精読して、三者の関係を明らかにする。また朱子学に非ざるもの（陽明学ほか）に対する苛烈な排撃、朱子学内部での正統と異端をめぐる執拗な論争など、朝鮮思想史上のトピックについても東アジアの視点から解明する。

４．研究成果
朝鮮王朝の知識人が行った学問の内容を分析して東アジア海域の文化交流におけるその位置を見定め、あわせて江戸文化との比較検討作業を行った。
すなわち、主として朝鮮の朱子学・陽明学・実学・科学を具体的に取り上げ、それに認められる中国やヨーロッパ起源の知識や概念との影響関係を検証してその間の異同を明らかにした。そして、その特徴を日本の場合と対照させ、影響面を解明するとともに、質的な相違点についても考察を加えた。
具体的な研究成果は、以下の 6 つの項目から成る。

(1) 朝鮮学の基本資料を体系的かつ計画的に収拾整備する目的により、韓国歴代文集叢書。韓国文集叢刊などの書籍を購入した。

（2）韓国・中国等の地域、機関等に赴き、関連史蹟や文献資料の調査を実施した。

（3）学術講演・学術発表を行い、研究成果の一部を公表した。その詳細については「５．主な発表論文等」を参照。

（4）学術論文などを執筆し、研究成果の一部を公表した。その詳細については「５．主な発表論文等」を参照。

（5）研究代表者川原及び研究分担者の中、水口の３名はメイル等により緊密に連絡を取り合いながらそれぞれの研究に従事するとともに、研究会を開催、それぞれの研究成果について報告を行った。

（6）高橋亨の朝鮮思想に関する講義ノートを入手。目下、整理中である。

朝鮮思想が本国固有の文化伝統に根ざすのみならず、中国思想とイエズス会の伝えた西欧思想の影響をうけたことは、先行研究が明らかにしたとおりである。朝鮮思想も東アジアにおける文化交流の歴史的産物であるからには、それを東アジア文明や歴史総体のなかに位置づけしなければならないことは自明の道理であろう。
本研究の最大の目的は、総合的視点（東アジアの視点）にもとづく朝鮮思想の分析理解を試みるところにあった。また個別的な朝鮮思想研究においても、陽明学の受容については、日本では一、二の先駆的業績を除けば先行研究は皆無に近く、韓国国内でも 1990 年代に入って漸く本格化してきたものの、なお未開拓の領域であった。
このような現下の研究状況に鑑みても、本研究の遂行は多大の独創的成果をもたらすことができたと考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 20 件）
①中純夫（掲載 6 番目）など 6 名、『朱子語類』巻一四「大学」一（1～91 条）訳注、京都府立大学学術報告（人文）、査読無、2009、53-142 頁

②水口拓寿、論中華文化復興運動時期的「祭孔礼楽之改進」、「世界的孔子：孔廟与祀典」国際学術研討会論文集（巻番号無）、査読無、2010、133-155 頁

③中純夫、熊賜履の『閑道録』について――清初の陽明学批判――、陽明学 21、査読無、2009、93-122 頁

④川原秀城、丁若鏞の科学著作、茶山学 13、査読有、2008、43-134 頁

⑤中純夫、朝鮮朝時代の科挙と朱子学、京都府立大学学術報告（人文・社会）60、査読無、2008、125-157 頁

⑥中純夫、尹根寿と陸光祖――中朝間の朱陸問答――、東洋史研究 67-3、査読有、2008、102-140 頁

⑦中純夫、朝鮮陽明学の特質について、台湾東亜文明研究学刊 5-2、査読無、2008、129-153 頁

⑧中純夫、文廟における孔子――塑像から木主へ――、宗教遺産学構築のための基礎的研究――丹後・宮津地域を中心に――（巻番号無）、査読無、2008、41-59 頁

⑨中純夫、信斎李令翊と椒園李忠翊――初期江華学派における陽明学受容――、関西大学東西学術研究所紀要 40、査読有、2007、1-29 頁

⑩中純夫、張烈の王学質疑について――陽明学批判の論理――、山根幸夫教授追悼記念論叢　明代中国の歴史的位相　下巻、査読無、2007、529-566 頁

⑪中純夫、鄭斉斗の後裔たち――江華学派の基礎的研究――、西脇常記教授退休記念論集　東アジアの宗教と文化（巻番号無）、査読無、2007、55-107 頁

〔学会発表〕（計 10 件）

①水口拓寿、術数学の地位と術数文献の価値――四庫全書の子部術数類をめぐって――、日本道教学会第 60 回大会、2009.11.6、東京大学

②中純夫、景宗英祖期の政局と党争――少論峻少派を中心に――、洛北史学会第 10 回定例大会、2008.12.6、京都府立大学

③中純夫、朝鮮陽明学の特質について、文献資料からみた東アジア海域文化交流、2008.9.21、学習院大学

④水口拓寿、術数文献在四庫全書―伝蔡元定撰《発微論》中的風水地理思想、中国科学院自然科学史研究所学術講演会 2008.3.18、中国科学院自然科学史研究所

⑤水口拓寿、「中華文化の復興」としての孔子廟改革―1968-70 年の台北孔子廟を焦点として、UTCP 国際ワークショップ「中国伝統文化が現代中国で果たす役割」、2008.3.7、東京大学

⑥中純夫、朝鮮朝時代の科挙と朱子学、特定領域研究「東アジア海域交流」文献資料研究部門・総括班共催シンポジウム「文献資料からみた東アジア海域文化交流」、2008.1.13、大阪市立大学

⑦川原秀城、西学と禁教、韓国延世大学校康津茶山実学研究院開院 1 周年記念第一回国際学術大会、2007.11.3、韓国延世大学校康津茶山実学研究院

⑧中純夫、江華学派と星湖学派の交錯、第 44 回朝鮮史研究会大会、2007.10.21、立教大学

⑨水口拓寿、なぜ風水は迷信視されたかー中国の場合、明治大学古代学研究所公開シンポジウム「東アジアの風水思想」、2007.10.21、明治大学

⑩川原秀城、権近與朱子學、第二届生命文化系列講座、2007.7.7、台湾天帝教 leilia 道場

〔図書〕（計 9 件）

①岡本和夫・川原秀城・渡辺純成・佐藤賢一、関流和算書大成――関算四伝書――四、五、六、七、八巻、勉誠出版、2010、3616 頁

②川原秀城、김광래 옮김、독약은 입에 쓰다、成均館大学校出版部、2009、320 頁

③水口拓寿、風水思想と儒教知識人：言説史の観点から、東京大学大学院人文社会系研究科博士論文ライブラリー（オンデマンド出版）、2009、417 頁

④岡本和夫・川原秀城・渡辺純成・佐藤賢一・安大玉、関流和算書大成――関算四伝書――一、二、三巻、勉誠出版、2010、2241頁

⑤川原秀城監訳、安大玉（掲載1番目）など7名共訳、裴宗鎬著、朝鮮儒学史、知泉書館、2007、365頁

⑥水口拓寿、風水思想を儒学する、風響社、2007、66 頁

⑦水口拓寿（掲載 6 番目）など 6 名、朱震亨『格致餘論』訳注、朱震亨読書会、2007、173 頁

⑧小島毅・水口拓寿共編、宋史礼志二訳注、文部科学省特定領域研究「東アジアの海域

交流と日本伝統文化の形成」（課題番号17083004）王権理論班、2007、72 頁

〔その他〕
ホームページ等
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/maritime/

上記は、文部科学省特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—」全体のホームページである。

６．研究組織
(1)研究代表者
川原　秀城　（KAWAHARA Hideki）
東京大学大学院人文社会系研究科・教授
研究者番号：70135177

(2)研究分担者
中　純夫（NAKA Sumio）
京都府立大学文学部・教授
研究者番号：50207700

研究分担者
安　大玉（AHN Daeok）
東京大学大学院人文社会系研究科・助手
研究者番号：40361547
（H17→H18）

研究分担者
水口　拓寿（MINAKUCHI Takuju）
東京大学大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号：80451780
（H19→H21）

(3)連携研究者　なし